

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]

教科に関する調査
成果と課題及び指導改善のポイント

平成30年2月19日（月）

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

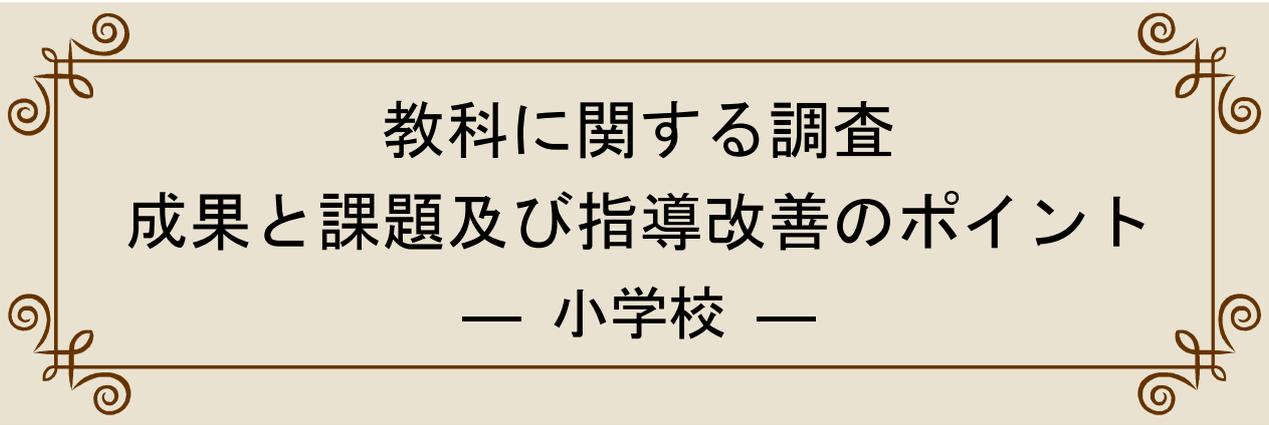
教科に関する調査
成果と課題及び指導改善のポイント

◎小学校

小学校国語	・・・・・・・・・・	1
小学校社会	・・・・・・・・・・	2
小学校算数	・・・・・・・・・・	3
小学校理科	・・・・・・・・・・	4

◎中学校

中学校国語	・・・・・・・・・・	5
中学校社会	・・・・・・・・・・	6
中学校数学	・・・・・・・・・・	7
中学校理科	・・・・・・・・・・	8
中学校英語	・・・・・・・・・・	9



教科に関する調査
成果と課題及び指導改善のポイント
— 小学校 —

小学校国語（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 互いの考えの共通点や相違点を捉えて話し合ったり、話の意図や目的を考えて聞いたりすることができている。
(小学4年生¹四、小学5年生¹三)
- ◇ 目的や意図に応じて、取材の内容を考えたり、事実と意見を区別して書いたりすることができている。
(小学5年生³四、小学6年生³四)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができている。
(小学4年生⁵一、小学5年生⁶一、小学6年生⁶一)
- ◆ 1 立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことに課題が見られる。
(小学5年生²一、小学6年生²一)
- ◆ 2 目的や必要に応じて、書こうとすることの中心を明確にしたり、理由や事例を挙げたりして書くことに課題が見られる。
(小学4年生²二、小学5年生³五)
- ◆ 3 登場人物の会話に即して読んだり、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。
(小学4年生³二、小学5年生⁴二)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う力を育成するためには、グループや学級全体の話合い活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - グループや学級全体での共通理解や問題解決に向けて、意見を出し合い一つにまとめていく「協議」や互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関係付ける「討論」などの活動を言語活動として設定していますか。
 - 協議や討論のモデルを示すなどして、児童が話合いの仕方を理解できるような指導を行い、実際に協議や討論をする活動を単元の中に設定するようにしていますか。
 - 児童が、司会などの役割を理解できるようにし、話合いの規模に応じて児童一人一人がそれぞれの役割を果たすような経験ができる機会を設けるようにしていますか。
 - 話合い活動のあとに、自分の発言や友達の発言を振り返る時間を設けていますか。
- ◆ 2 書こうとすることの中心を明確にしたり、目的や必要に応じて、理由や事例を挙げたりして書く力を育成するためには、書く活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童がもった課題について調べさせ、意見を記述した文章や活動を報告した文章を書くような言語活動を設定していますか。
 - 理由や事例を挙げて書く際は、「なぜかという～」、「～のためである」、「例えば～」、「～などが当たる」などの表現を使って書くように指導していますか。
 - 自分の考えを明確に表しているか、表現の曖昧さはないかなど、自分が書いた文章を児童自身が推敲する活動を設定していますか。
 - 書いた文章などを児童がお互いに読み合っ、表現の仕方について助言し合ったり、よいところを見つけて感想を伝え合ったりするような活動を設定していますか。
- ◆ 3 登場人物の会話に即して読んだり、優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりする力を育成するためには、文学的な文章を解釈する活動で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 文学的な文章を読み、感想を述べ合うような言語活動を設定するようにしていますか。
 - 場面ごとに読ませるのではなく、物語全体に描かれた行動や会話に関わる複数の叙述を関連付けて登場人物の気持ちの変化や性格を想像させるようにしていますか。
 - 学習した教材と同じ作者や同じ題材の作品を比べ読みできるようにするなど、児童が日常的に文学的な文章に触れることができるように教室環境を整えていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 県の様子や住みよいくらしなどの地域社会に関する知識が身に付いている。
(小学4年生³₂⁵(1)、小学5年生¹(1))
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(小学4年生²(1)(2)、小学6年生⁸(2))
- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に、気付きや疑問をもち、学習のめあて（学習問題）を考えることに一部課題が見られる。
(小学4年生³(1)、小学5年生⁴(2))
- ◆ 2 複数の資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現することに課題が見られる。
(小学4年生⁵(4)、小学5年生³(3)⁶(2))
- ◆ 3 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識の習得に課題が見られる。
(小学5年生²(2)(4)、小学校6年生¹(2)³(3))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に、気付きや疑問をもち、学習のめあて（学習問題）を考える力を育成するためには、「課題をつかむ」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 児童にとって身近な資料や児童が疑問をもつような資料を提示していますか。
 - 児童から疑問や予想を引き出すために、資料の提示の仕方を工夫していますか。
 - 児童の発言に対して、“ゆさぶる発問”をするなどして、児童の「もっと詳しく調べたい」というような意欲を高めるようにしていますか。
 - 児童の気付きや疑問を生かして学習のめあて（学習問題）をつくるようにしていますか。

- ◆ 2 資料から読み取った情報を基に、考えたことを表現する力を育成するためには、「調べる」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「なぜ～だろうか?」「どうすればよい(よかった)のだろうか?」というような発問をして、グループや学級全体で話し合うときのテーマを設定していますか。
 - 児童が、自分の考えを書いたり、話したりするときに、「なぜなら・・・」「理由は・・・」などの言葉を使って、根拠となる事実を表現できるように指導していますか。
 - 児童の説明が不足しているときに、「なぜ～だったら～になるのですか?」といったような問い返しの発問をしていますか。

- ◆ 3 国土や産業、歴史上の主な事象に関する知識を習得させるためには、「調べる」過程や「考え・まとめる」過程において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 「調べる」過程では、グループや学級全体で話し合う際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉で説明したりできるように指導を行っていますか。
 - 「考え・まとめる」過程では、国土の様子や工業地域の分布などを図示したり、人物が行ったことをワークシートやカードにまとめたりする際に、学習した用語を使ったり、自分の言葉でまとめたりするように指導を行っていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 整数や小数、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。
(小学4年生¹(1)、小学5年生¹(1)、小学6年生¹(2))
- ◇ 場面と図とを関連付けたり、場面と数直線とを関連付けたりして、二つの数量の関係を理解することができる。
(小学5年生³(1)、小学6年生³(1))
- ◇ 正方形の辺と辺の平行の関係、立方体の面と面の平行の関係を理解することができる。
(小学4年生⁷(2)、小学5年生⁷(2))
- ◆ 1 整数と小数の大小関係、分数の大小関係の理解に課題が見られる。
(小学4年生⁴(4)、小学5年生²(3))
- ◆ 2 小数の乗法や分数の除法の式の意味の理解に課題が見られる。
(小学5年生²(5)、小学6年生³(2))
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄が正しくない理由を説明することに課題が見られる。
(小学4年生¹¹、小学5年生¹²、小学6年生¹⁴)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 整数や小数の大小関係や分数の大小関係を理解することができるようにするためには、小数や分数の大きさや意味について考える場面を設定して指導することが大切です。
 - 整数や小数、分数を図や数直線などに表し、それぞれのおよその大きさを捉え、それを基に大小関係を判断するような活動を授業に位置付けていますか。
 - 表された小数や分数について、何が何個あるという見方（例えば、10.2は、10が1個と0.1が2個ある）や、何のいくつ分であるという見方（例えば、10.2は、0.1の102個分である）など、複数の見方を通して、児童がその大きさを理解できるように指導していますか。
- ◆ 2 乗法と除法の式の意味を理解することができるようにするためには、式の意味や求められた数値の意味を考える場面を設定することが大切です。
 - 児童に立式させるだけでなく、「なぜ、そのように立式できるのか」ということを、具体的な問題場面と関連付けながら図や式、言葉などを用いて児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 立式に使った数値の意味や立式して求められた数値の意味について、児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄の正誤の理由を説明することができるようにするためには、問題の意味や他者の考えを解釈したり、誤った考えを正しい考えに修正したりする場面を設定することが大切です。
 - 問題解決に必要な情報だけを児童に提示するのではなく、児童が問題場面を解釈し、問題の解決に必要な情報を考えて選ぶような活動を授業に位置付けていますか。
 - 教師が示した考えや友達が発表した考えの意味を解釈し、図や式、言葉などを用いて説明する活動を授業に位置付けていますか。
 - 正しい考えだけでなく、誤った考えも意図的に示すなどして、児童に話し合う必然性をもたせ、示された考えの誤っている部分を見つけて誤っている理由を考えたり、誤った考えを正しい考えに修正したりするような活動を授業に位置付けていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

小学校理科（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 「物質・エネルギー」については、自然事象の原因と結果を関係付けることができている。
(小学4年生¹(2)、小学6年生²(3)(4)(3))
- ◇ 「生命・地球」については、複数のものを比較し、それらの相違点を捉えることができている。
(小学5年生⁸(1)(9)(1)、小学6年生⁸(4))
- ◇ 天体や気象については、月や太陽を観察する方法や調べ活動の仕方を身に付けている。
(小学4年生⁶(1)(9)(2)、小学5年生¹²(1)、小学6年生⁸(1))
- ◆ 1 空気や電流など、原因が目に見えない自然事象について、学習したことを活用して解釈することに課題が見られる。
(小学4年生¹(4)、小学5年生¹(3)(11)、小学6年生⁴(1)(10)(2))
- ◆ 2 ものの性質や実験器具の名前のような基本的な知識の習得については、課題が見られる。
(小学4年生⁴(1)(7)(2)(10)(2)、小学5年生³(3)(10)(2)、小学6年生⁴(2)(5)(2)(2))
- ◆ 3 薬品を使ったり加熱したりする実験について、安全に留意して行うことに課題が見られる。
(小学5年生³(1)、小学6年生⁶(1))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 空気や電流など、原因が目に見えない自然事象について、学習したことを活用して解釈する力を育成するためには、児童が自然事象をイメージできるような指導を行うことが大切です。
 - 児童が実験したり身近な自然事象を観察したりする際に、空気や電流など目に見えないものを絵や図に表すなどして、事象の様子を表現する活動を設定していますか。
 - 絵や図に表した事象の様子を友達に言葉で説明するなどして、表した絵や図の妥当性を児童が考える活動を設定していますか。

- ◆ 2 名称や性質のような基本的な知識の習得を図るためには、学習した知識を活用する必然性がある活動の設定と、問題解決を通して理解することができるような指導を行うことが大切です。
 - 既に学習したことを使って考えさせる場面を設定し、その名前や使い方、性質まで合わせて表現させるようにしていますか。(例：「どのような実験をして、どうなったら、でんぷんがあると言えますか?」)
 - 児童が実験結果を考察する際に、自分の言葉で、「どのような実験を行ったか」「どのような結果が得られたか」「自分の仮説に対して、結果からどのようなことが言えるのか」といったようなことを整理して表現するなどして、自分が理解したこととその根拠となることを明らかにする活動を設定していますか。

- ◆ 3 安全に留意して観察や実験を行う力を身に付けるためには、児童が危険性について認識できるようにした上で、一人一人が実際に器具を操作できるような環境を整えることが大切です。
 - 「誤った操作をしたらどのような危険があるのか」ということまでを児童が理解できるようにして、児童が安全に留意して観察や実験を行おうとする意識を高めるような指導を行っていますか。
 - 可能な限り全ての児童が実際に器具を操作する機会を設けることができるように、器具の準備や授業の計画などを行っていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

教科に関する調査
成果と課題及び指導改善のポイント
— 中学校 —

中学校国語（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 多様な語句について理解を深め、語句や語彙を正しく使うことができている。
(中学１年生⁵四、中学２年生⁵四¹二)
- ◇ 全体と部分の関係に注意して話したり、異なる立場や考えを想定して話したりすることができる。
(中学１年生¹四、中学２年生¹一)
- ◆ 1 歴史的仮名遣いについて理解したり、現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解したりすることに一部課題が見られる。
(中学１年生⁵六¹、中学２年生⁵六¹二)
- ◆ 2 描写から行動の理由を読み取ったり、自分の考えをまとめるための根拠を明確にしたりすることに課題が見られる。
(中学１年生⁴一、中学校２年生⁴二)
- ◆ 3 表現や描写の特徴を捉え自分の考えをもったり、情報と関連付けながら読んだりすることに一部課題が見られる。
(中学１年生³三⁴二、中学２年生⁴四)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 歴史的仮名遣いについて理解したり、現代語訳を手掛かりにして作品の内容を理解したりする力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 古典の文章を繰り返し音読し、文語のきまりを理解できるようにしていますか。
 - 古典に描かれている情景や登場人物の心情を想像するなど具体的な目的をもたせ、現代語訳や語注、解説した文章などを手掛かりにして、古典を読み進めることができるようにしていますか。
 - 「兼好法師にとっての仁和寺とは？ 法師の足取りを本文と資料を重ねて読み取り、仁和寺観光ガイド（鎌倉時代版）を作ろう。」というような古典を学習する面白さや必然性を感じさせる学習課題の設定ができていますか。
- ◆ 2 描写から行動の理由を読み取ったり、自分の考えをまとめるための根拠を明確にしたりする力を育成するためには、内容を把握し文章を解釈する過程で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 登場人物の言動がどのような心情に基づくものかを、心情描写だけではなく、会話や他の行動、情景などの描写に注意して読み進めながら、考えることができるようにしていますか。
 - 生徒が、描写について考えを交流する場面で、互いの考えについて「なぜ～」のように理由や根拠を問うことができるようにしていますか。また、理由や根拠だけではなく、考えについて、どのようにして、その考えに至ったのか、本当にその考えは正しいのか、例えばどのような具体例があるのかなどを問い、考えを深めることができるようにしていますか。
- ◆ 3 表現の特徴を捉え自分の考えをもったり、情報と関連付けながら読んだりする力を育成するためには、文章を解釈し自分の考えをもつ過程で、次のような指導を行うことが大切です。
 - 表現技法などの基礎的な知識をまとめたワークシートをファイリングするなどして、生徒がいつも参照することができるようにしていますか。
 - 「指導事項」「言語活動」「単元の中心となる思考操作」を明示した学習課題を設定し、生徒が自分の問いをもって読み進めることができるようにしていますか。
 - 複数の教材を読み比べたり、教材と図表などを関連付けながら読んだりする活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校社会（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 地理的分野において、社会的事象に関する基本的な知識が身に付いている。
(中学1年生 $\boxed{1}$ $\boxed{1}$ $\boxed{3}$ $\boxed{2}$ $\boxed{1}$ $\boxed{3}$ 、中学2年生 $\boxed{2}$ $\boxed{2}$ $\boxed{1}$ $\boxed{3}$ $\boxed{1}$ $\boxed{2}$ $\boxed{3}$)
- ◇ 資料から適切な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(中学1年生 $\boxed{2}$ $\boxed{2}$ $\boxed{5}$ 、中学2年生 $\boxed{6}$ $\boxed{1}$ $\boxed{1}$ $\boxed{2}$ $\boxed{4}$)
- ◆ 1 歴史的分野において、歴史の捉え方や政治の経過の理解に課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{4}$ $\boxed{1}$ $\boxed{2}$ $\boxed{4}$ $\boxed{5}$ 、中学2年生 $\boxed{6}$ $\boxed{2}$ $\boxed{3}$)
- ◆ 2 歴史的分野において、社会的事象に関する基本的な知識の理解に課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{5}$ $\boxed{4}$ $\boxed{6}$ $\boxed{3}$ 、中学校2年生 $\boxed{4}$ $\boxed{1}$ $\boxed{2}$ $\boxed{3}$ $\boxed{5}$ $\boxed{1}$ $\boxed{6}$ $\boxed{2}$ $\boxed{1}$ $\boxed{2}$)
- ◆ 3 資料を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや、社会的事象の意味や意義を解釈し理由を説明することに課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{5}$ $\boxed{3}$ $\boxed{5}$ 、中学2年生 $\boxed{3}$ $\boxed{4}$ $\boxed{4}$ $\boxed{4}$ $\boxed{5}$ $\boxed{3}$)

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 歴史学習の基盤となる時代区分や年代の表し方、時代の流れを理解できるようにするために、生徒が時代を大観することができるような指導を行うことが大切です。
 - 単元の導入等において、小学校で学習してきた歴史上の人物や出来事などの知識を想起させ、生徒が発表したりまとめたりしながら、時代ごとのイメージをもてるようにしていますか。
 - 時代ごとの学習に取り組む際も、ICT機器、ワークシートなどを活用して年表を提示することにより、時代の流れや前後の関連を確かめることができるようにするとともに、時代区分や年代の表し方などについても継続的・計画的に振り返らせていますか。
- ◆ 2 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識を習得させるためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 一問一答形式の小テストや重要語句を記憶しているかを確認するような発問を行うだけではなく、生徒が社会的事象の意味を考えたり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするような発問を行ったり、活動を位置付けたりしていますか。
 - 単元や授業のまとめをする際に、生徒が、本単元や本時で学習したことや既習事項を用いて、自分の言葉で説明したり、ワークシートにまとめたりする活動を設定していますか。
- ◆ 3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明する力や、社会的事象の意味や意義を解釈し理由を説明する力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動を授業に位置付けることが大切です。
 - 生徒が興味を示したり、疑問をもったりするような、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料を提示するなどして、生徒の関心を高めていますか。
 - 生徒の疑問や気付きから「なぜ～?」「どのように(な)～?」など、単元を通した課題を設定し、単元を通して、その課題を生徒が追究したり解決したりする活動を設定していますか。
 - 課題を追究したり解決したりする活動の中で、生徒が資料から読み取った情報を基に、理由を考えたり、自分の考えを説明したりするような活動を設定していますか。
 - 生徒が自分の考えを説明する際に、そのように考えた根拠を示したり、そのように考えた理由を述べたりすることができるように指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校数学（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 正の数と負の数の計算、同類項をまとめる計算、連立二元一次方程式を解く技能が身に付いている。
(中学1年生¹(1)(2)、中学2年生¹(1)(3)(3))
- ◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。
(中学1年生⁶(1)、中学2年生⁴(1)(5)(1))
- ◆ 1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から x と y の関係を式に表したりすることに課題が見られる。
(中学1年生⁹(2)(10)(2)、中学2年生⁹(3))
- ◆ 2 資料から範囲を求めたり、度数分布表から相対度数や最頻値を求めたりすることに課題が見られる。
(中学2年生¹¹(12)(1)(2))
- ◆ 3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明すること、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することに課題が見られる。
(中学1年生⁸、中学2年生⁵(2))

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から x と y の関係を式に表したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 比例、反比例、一次関数の式が、それぞれ $y=ax$ 、 $y=a/x$ 、 $y=ax+b$ で表されることを、生徒が確実に理解できるようにしていますか。
 - ☐ 比例や反比例、一次関数の特徴を、式だけでなく、表やグラフでも捉えることができるようにし、生徒が、表、式、グラフを相互に関連付けて考えるような活動を通して、理解を図るようにしていますか。
- ◆ 2 資料から範囲を求めることや度数分布表から相対度数や最頻値を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 資料の活用における「範囲」の意味や表し方が、日常生活で用いる「範囲」という言葉の意味や表し方とは異なるということを、生徒が理解できるようにしていますか。
 - ☐ 総度数が異なる資料を比較する際に、階級の度数をそのまま比較することが適切ではないことを生徒が実感できるような場面を設定し、「相対度数」の意味や「相対度数」で表すことの必要性を、生徒が理解できるようにしていますか。
 - ☐ 度数分布表から最頻値を求める際に、「度数の最も多い階級の階級値を最頻値として用いる」ということを、生徒が理解できるようにしていますか。
 - ☐ 度数分布表から資料の傾向を捉える際に、相対度数を求めたり、ヒストグラムから資料の傾向を捉える際に、範囲を確認させ、代表値として平均値、中央値、最頻値を求めたりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - ☐ 生徒が、式から読み取ったことや事柄が成り立つ理由などを記述したり、他者に説明したりする活動を設定し、適切な指導を行っていますか。
 - ☐ 生徒が記述したり説明したりした内容が適切であるかどうかを生徒同士が互いに吟味し合っ、て、よりよい表現にしていくような活動を授業に位置付けていますか。
 - ☐ 生徒が、事柄が成り立つ理由を説明する際に、根拠を明確にすることや、結論までを確実に表現することを指導していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校理科（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 状態変化や水の電気分解の実験を安全に行うための技能が身に付いている。
(中学1年生 **13**(1)、中学2年生 **6**(1))
- ◇ 植物を観察する技能について、同一学年の経年比較をすると、平成28年度[12月調査]から改善が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合…… H28:0.50 → H29:0.91) ※1 (中学1年生 **1**(1)**2**(1))
- ◆1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けることについて課題が見られる。
(中学1年生 **14**(2)、中学2年生 **5**(1)**3**(9)(1)**10**(1)**3**(11)(2))
- ◆2 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用することについて、平成28年度[12月調査]に引き続き、課題が見られる。
(中学1年生 **5**、中学2年生 **2****3**(2)**5**(2)**9**(2))
- ◆3 実験結果を基に推定することに課題が見られる。
(中学1年生 **3**(2)**8**(2)**13**(4)、中学2年生 **7**(2)(4))

※1 平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 自然の事物・現象についての基礎的な知識を身に付けさせるためには、次のような指導を行うことが大切です。

- 自然の事物・現象についての概念や原理・法則を学習する際は、観察、実験などを通して、生徒が自ら概念や原理・法則を見いだせるようにした上で理解できるようにしていますか。
- 概念や原理・法則について説明する活動を通して、知識同士のつながりを意識しながら理解できるようにしていますか。

- ◆2 日常生活や社会の特定の場面において、身に付けた知識・技能を活用する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- 授業の導入の段階で、教師の演示実験などを基に生徒と共に学習問題を導き出すなどして、生徒が、目の前で起こる事象と理科の学習を結び付けることができるようにしていますか。
- 授業で学習した内容を使って日常生活に見られる事象を説明させる機会を設けていますか。
- 例えば、製鉄や石油の精製など、理科で学習したことが様々な形で応用されて、自分たちの生活を豊かにしていることに気付かせ、理科の有用性を実感できるようにしていますか。

- ◆3 実験結果を基に推定する力を育成するためには、次のような指導を行うことが大切です。

- 自分の設定した仮説や計画した観察、実験の方法が正しければ、どのような結果が得られるか見通しをもたせた上で観察、実験に取り組みせ、得られた結果を基に考察に取り組みせるようにしていますか。
- 生徒が結果の考察を自分の言葉で書き、書いた考察を他の生徒に説明する活動を位置付けていますか。その際、個人で書いた考察を互いに吟味し合い、よりよいものにするように指導していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

中学校英語（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 対話を聞いて、適切に応じる力が、1年生で身に付いており、2年生では、同一学年の経年比較をすると、平成28年度[12月調査]から改善の傾向が見られる。
(「十分達成」の基準を1とした場合…H28:0.78→H29:1.05)※1 (中学1年生³、中学2年生²)
- ◇ 自然な口調で話される英語や対話を聞いて、概要や必要な情報を理解することができる。
(中学1年生²、中学2年生¹ ³(1))
- ◆1 対話文を読んで、話し手の意図や伝えようとしていることを正確に読み取ることに課題が見られる。
(中学1年生⁷(2)、中学2年生⁶(1)AB)
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことに課題が見られる。
(中学1年生¹⁰(2)、中学2年生⁸)
- ◆3 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測することに課題が見られる。
(中学2年生⁶(2))

※1 平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 対話文を読んで、話し手の意図や伝えようとしていることを正確に読み取ることができるようにするためには、本文を読解する学習において、次のような指導を行うことが大切です。
 - 書かれている情報を問う「事実発問」、書かれている情報を基に書かれていない状況を推測させる「推論発問」、書かれている内容に関して、生徒自身がどう考えるかを問う「評価発問」といった発問構成を意識して発問をしていますか。
 - 生徒が発問に対する答えを考えたときに、本文中に印を付けたり、メモを取ったりしながら分かるまで繰り返し読むように指導していますか。
 - 生徒が発問に対する答えを発表したり、書いたりするような活動を設定していますか。
 - 生徒が発問に対する答えの根拠を述べたり、書いたりするように指導していますか。
 - 本文に書かれている内容に関する自分の意見や感想を、ペアやグループで意見交換するような活動を設定していますか。
- ◆2 疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して、状況に合った文を正しく書くことができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - Input（導入の場面）において、Teacher Talk を用いるなどして、生徒が表現の意味や使用場面について考えることができるようにしていますか。
 - 教科書の基本文や本文を扱うときに、状況を推測させるような発問をしていますか。
 - Intakeにおいて、実際のコミュニケーション場面を想定した言語活動を設定し、生徒が試行錯誤しながら、発話を考えることができるような機会を設けていますか。
 - Outputにおいて、「原稿を書いて、発表する」「友達の発話した内容について感想を言う」「英文を読んで、感想を述べ合う」など、複数の技能を統合した言語活動を設定していますか。
 - 生徒が記述した英文は、教師がチェックし、適時に Feedback していますか。
 - Outputにおける言語活動では、録画した生徒の発話の様子を視聴させたり、自分が発話した英文を記述させたものを教師がチェックして生徒に Feedback したりするなど、生徒自身が自分の発話した内容を振り返り、見直すことができるような工夫を行っていますか。
- ◆3 読み取った対話の展開や発言の内容を根拠に、登場人物のこの後の言動を推測できるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
 - 教科書の本文や基本文に記されている場面や状況を基に、生徒が、登場人物のやりとりからイメージを膨らませて、発話を付加するような活動を設定していますか。
 - 発話を付加した英文を互いに発表し合い、Sharing する中で、友達の発表に対して、視点に基づく気づきや感想を述べたり書いたりするような活動を設定していますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

